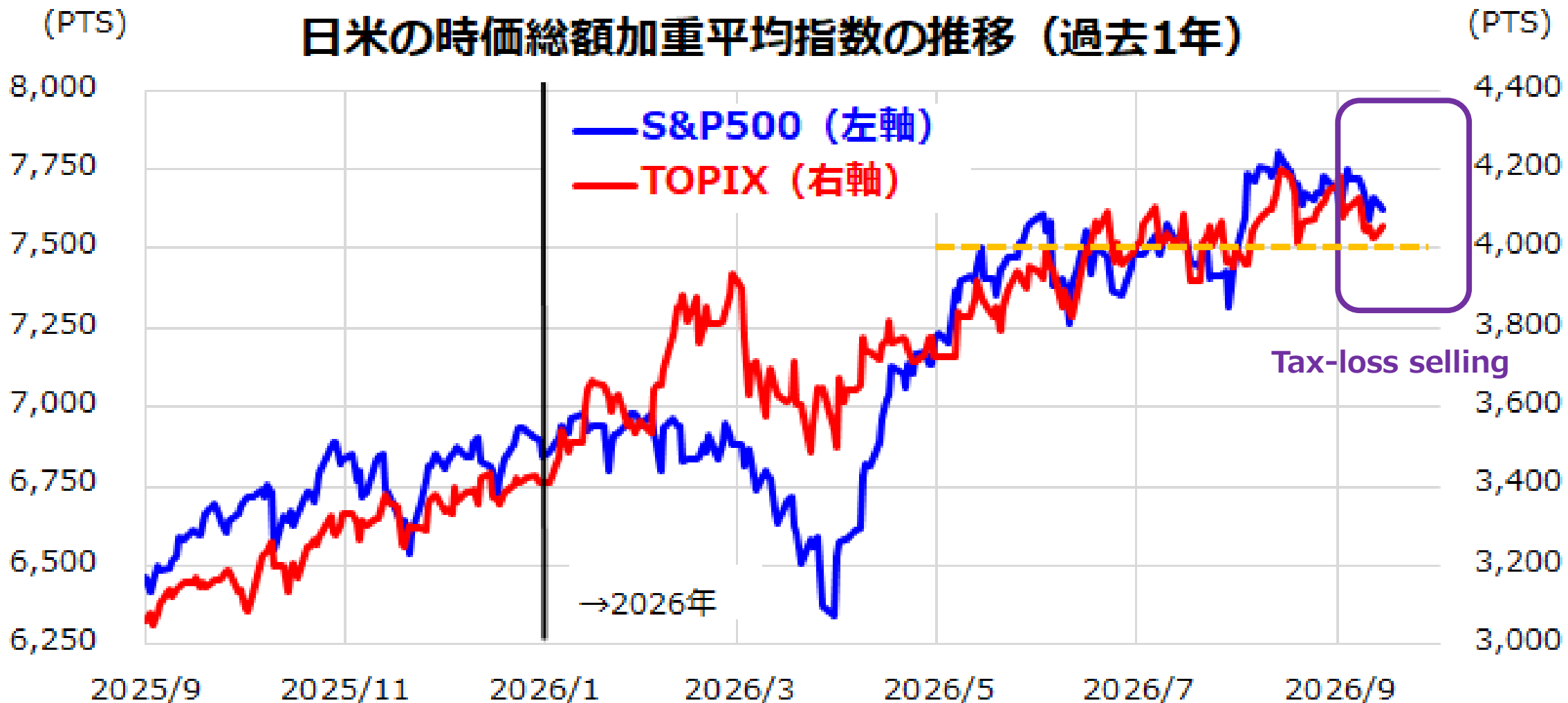


中間選挙年の秋は「需給の鬼門」で下値模索

需給不安に悪材料が重なり米国株と日本株は節目を割り込む可能性も

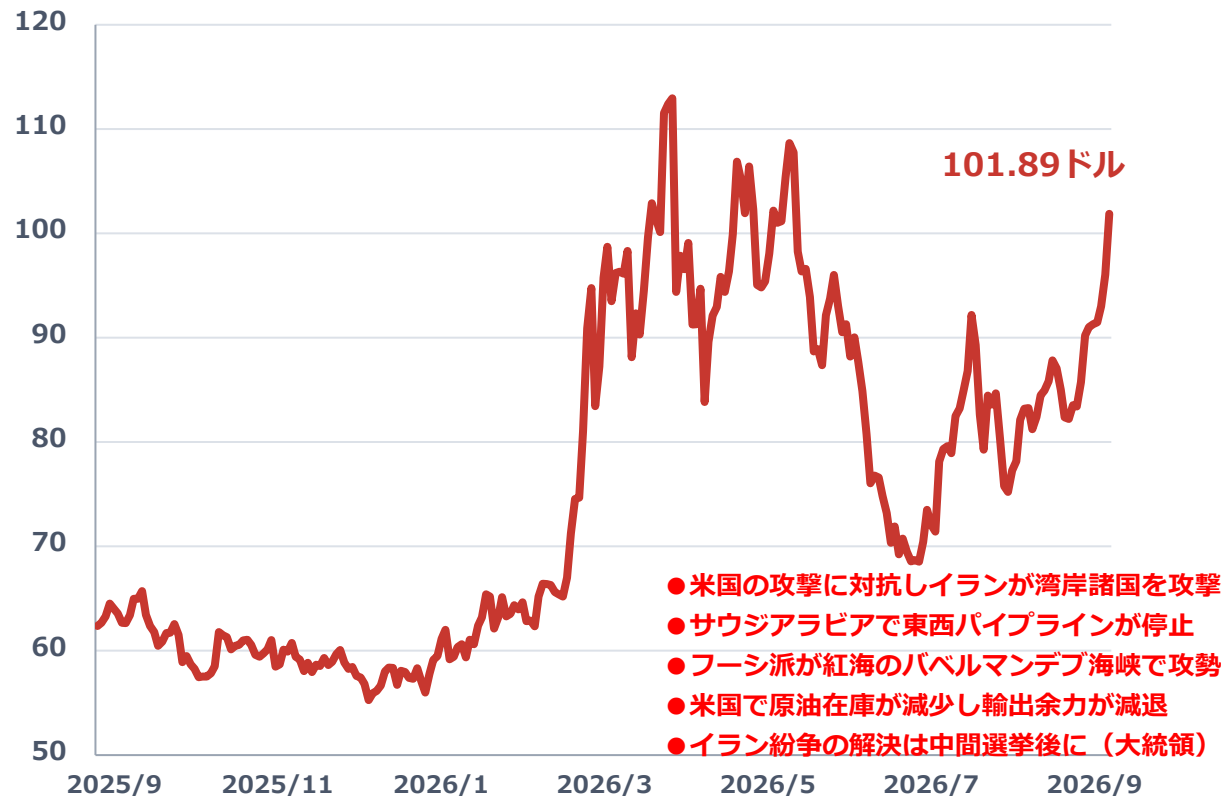


原油高と米金利上昇が株式相場の重石

中東での攻撃応酬と原油高、米加貿易摩擦、インフレ懸念、利上げ観測、財政悪化を不安視

WTI原油先物相場（過去1年）

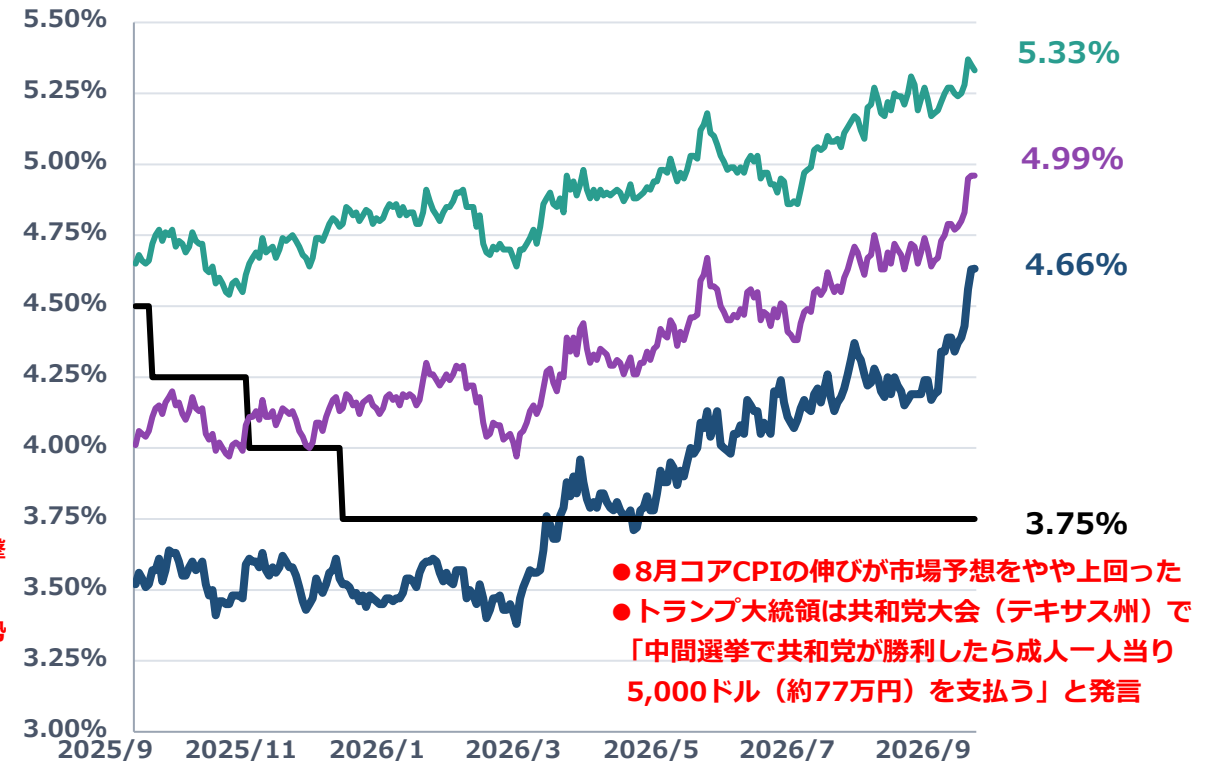
日次・ドル／バレル



米・政策金利と2年・10年・30年債利回り（過去1年）

日次・%

米国2年債 米国政策金利（上限） 米国10年債 米国30年債



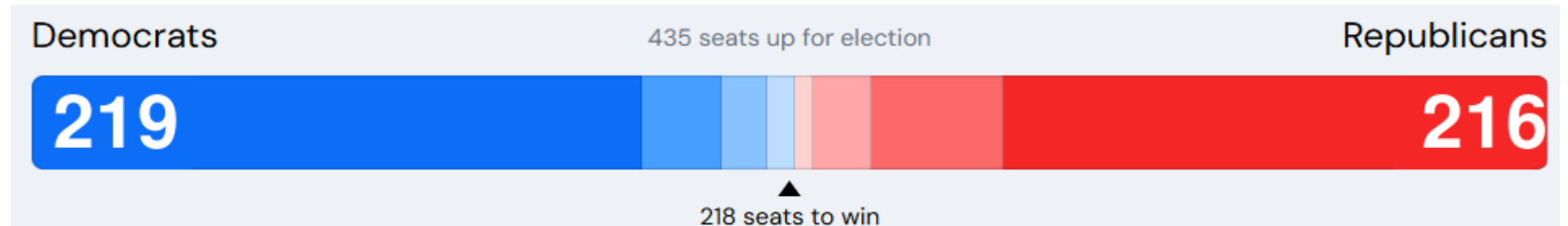
中間選挙は大接戦：「民主下院・共和上院」なのか

最新の選挙議席予測：

Pollsmaxは、世論調査、選挙区の党派性、最新の選挙区割り、過去の選挙結果、現職効果などを基に毎日シミュレーションを実施。9月14日時点では、大接戦ながら下院は民主党219議席で過半を獲得する予測。上院は50対50だが、副大統領の決選票で共和党が主導権を維持する「ねじれ議会」が基本線。

House Map

下院選後の
予想議席数



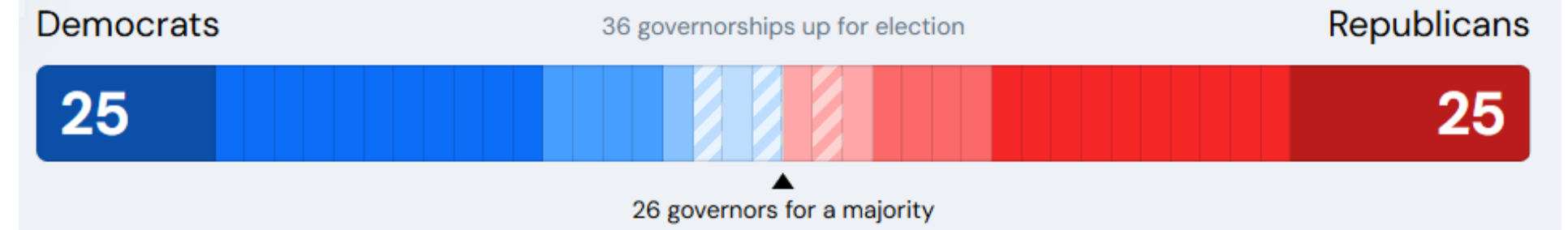
Senate Map

上院選後の
予想議席数



Governors Map

州知事の
党派別予測



選挙情勢の注目点とシナリオ別相場見通し

下院は民主優位、上院は接戦：今後の注目点と選挙結果別シナリオを考える

選挙情勢の注目ポイント：

●民主党で進歩派（DSA：民主社会主義派）の存在感が拡大

- ・公的医療の拡充、家賃規制、富裕層増税、富の再分配を重視。
- ・若年・都市部の動員力は高いが、中道・無党派層の離反がリスク。
- ・党選対資金力は民主党（1.2億ドル）が共和党（2.8億ドル）の半分以下

●共和党内の亀裂：外交・関税政策を巡る温度感が変化

- ・対イスラエル政策を巡り、強硬派と「America First」の非介入派が対立→軍高官が退任するなどイラン戦争に対する厭戦気運が強まる。
- ・物価高、関税、長期金利上昇への不満で共和党支持層の結束が揺らぐ。

●注目される接戦3州の上院選

- テキサス | Paxton（共和）vs Talarico（民主）
共和優位州ながら接戦化。民主奪取なら上院多数派争いが一気に流動化
- オハイオ | Brown（民主）vs Husted（共和）
副大統領の地元で共和優位州ながら、知名度の高い前職と現職が互角で接戦
- メーン | Collins（共和）vs Jackson（民主）
共和現職が薄氷の防衛戦。上院支配を左右する最重要区の一つ

選挙結果シナリオ別の相場見通し：

（A）民主下院 × 共和上院（ねじれ議会）

相場：政策の急変が抑えられ、短期的には安心感。
以後は業績・金利主導の選別相場へ。

物色：AI・半導体/電力・送配電/医療機器

理由：AI・電力網・国防投資は超党派。大型増税や歳出拡大は法案が通りにくい。

リスク：予算対立・政府閉鎖、強硬な外交政策

（B）共和党が上下院過半を維持（トリプルレッド）

相場：規制緩和と国内投資継続を好感。景気敏感株が優位となる一方、金利上昇が上値を抑制。

物色：銀行・証券/石油・ガス/資本財/防衛/
データセンター等のAIインフラ関連

理由：金融規制緩和、化石燃料開発、国防・設備投資拡大、AI・設備投資拡大への期待。

リスク：関税・原油高により長期金利が一段と上昇すれば、高PERグロース株に逆風となる。

（C）民主党が上下院を奪取（サプライズ）

相場：政権政策遂行力が低下し、短期的の不透明感。
民主党が大統領弾劾訴追に向け調査を始める可能性

物色：生活必需品/公益/高配当通信/ヘルスケア

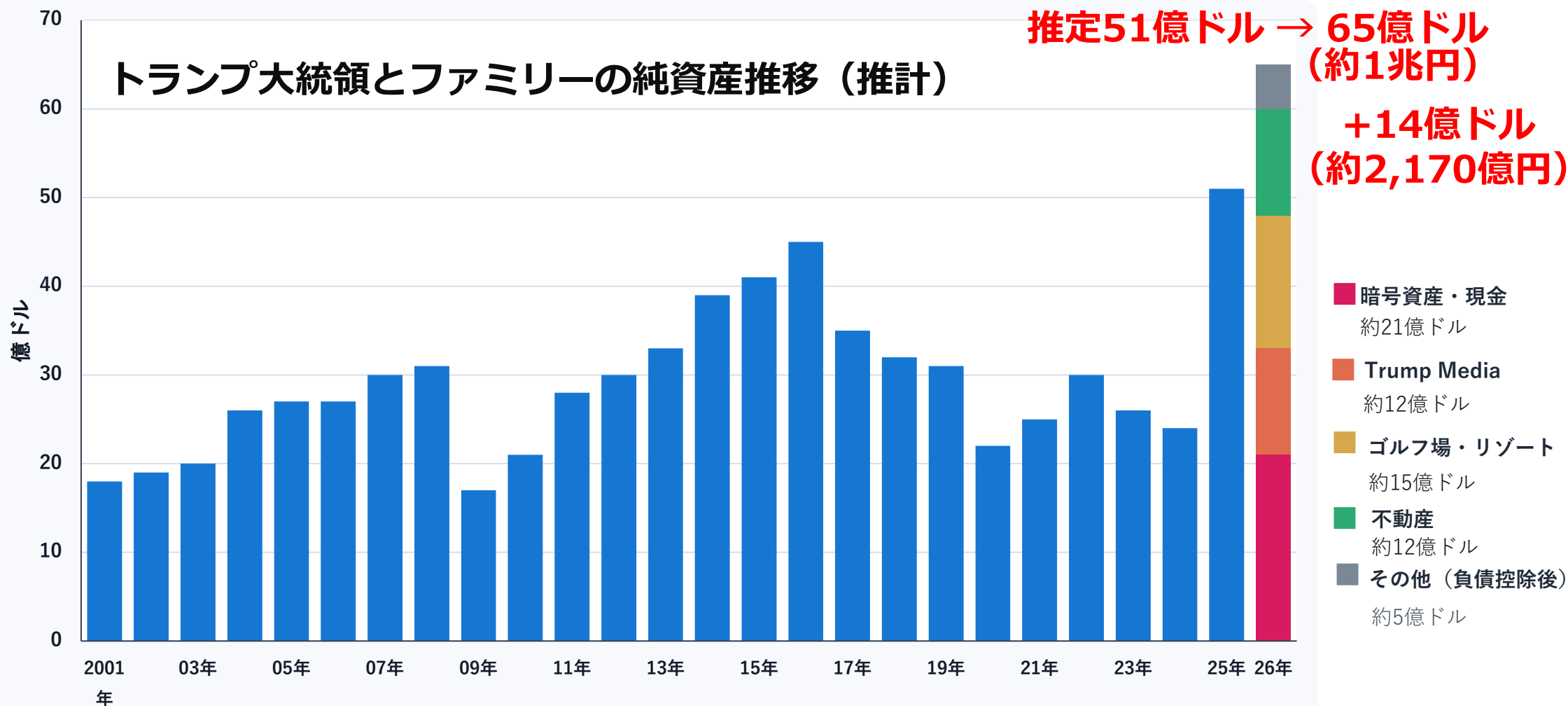
理由：景気感応度が低く、安定した利益と配当が相場を下支え。

リスク：大統領府と議会の対立。財政政策・規制強化は大統領が拒否権行使で実現は限定的か。

大統領の純資産急増に疑惑（フォーブス誌）

第2期就任後の「私財急増」に対する疑惑が浮上 → 民主党が弾劾訴追＆調査する公算

2025年 → 2026年



出所：Forbes “Here’s How Much Donald Trump Is Worth”（2026年3月25日報道）